

会場【第2音楽室】 第3学年 音楽科学習指導案	<h2 style="margin: 0;">アフリカの音楽で遊ぼう</h2>
	日時：平成23年11月22日（火）第2校時 指導者：広島市立大芝小学校 教諭 木本 春菜 児童：第3学年2組 24名

1 題材について

【題材の目標】

- アフリカの民謡のリズムや旋律に親しみ、拍の流れによってリズムをつくったり重ねたりして、曲想に合う表現を工夫する。

【学習指導要領】2内容A表現（2）イ

【共通事項】

- (1) ア(ア)
- リズム 音色
- 音の重なり

【教材】「マンガニ、雨とおどろう」(坪能 由紀子 作詞 編曲) (アフリカ南部地方曲)

【題材について】

本題材では、[共通事項]の中のリズムと音色、音の重なりに焦点を当て、リズムやいろいろな楽器の音色とその組合せを楽しみながら、様々な発想をもって演奏し、諸外国の音楽に対する関心を高めるとともに、音の重なり面白さを味わいながら、表現を工夫することができるようにすることをねらっている。

教材として、アフリカ南部の民謡である「マンガニ、雨とおどろう」を取り上げる。この楽曲には、数種類のリズムパターンがあり、それらのリズムを手拍子することで楽しくリズムパターンを身に付けることができると考える。また、様々な打楽器に触れたり、リズムパターンを身に付けたりするなどの学習経験を手掛かりとして、音の重なり面白さを味わうことができる教材である。

【児童の実態】

本学級の児童は、4月から「ハーモニータイム」でリズム譜を見て演奏する活動をしている。継続して取り組んできたことにより、リズム譜を読んだり、拍の流れによってリズムを打ったりすることができる児童が増えてきた。

7月に学習した「まほうのチャチャチャ」の学習では、いろいろな楽器の音色の違いや反復したり変化したりするリズムの楽しさを感じ取ることができた。また、グループで協力して思いや意図をもって演奏することができ、さらに、他のグループの演奏を聴くことの楽しさも味わうことができた。

【指導に当たって】

○【共通事項】リズム・音色・音の重なりについて

- ・ リズムパターンに慣れるために、「マンガニ、雨とおどろう」を歌いながら旋律に合わせてリズム打ちができるようにする。
- ・ アフリカの音楽の特徴にはポリリズム（2分割のリズムと3分割のリズムが同時に重なるなど）があげられるが、本題材では、教科書に掲載された3分割のリズム・パターンを扱う。児童の工夫の手掛かりとし、活動の見通しをもつことができるようにするために、リズム・パターンの組合わせたものや楽器を組合わせたものの模範演奏を用意する。また、楽器の音色の特徴を確認し、その特徴を生かして組合わせることができるように、楽器の配置を工夫する。

○かかわりの場の設定について

- ・ 6人で1グループとし、思いや意図を共通認識できるようにするために、グループでタイトルを決める。
- ・ 即興的にリズムをつくったり、どのように演奏したいかを話し合いながら表現を工夫したりするなど、児童が主体的に試行錯誤する時間を十分確保する。
- ・ 他のグループの演奏を聴いて、意見交流をしたことを自分達の演奏に生かすようにする。

○言語活動について

- ・ リズムや音色、楽器の音色や音の組合せについて、どのような思いや意図をもって工夫したかを伝え合う場を設定する。
- ・ 他のグループのよさや面白さについて、根拠を明らかにして発言できるようにする。

2 学習指導計画

【既習事項】

- ① 時期 第3学年 7月
- ② 題材名 「リズムにのって」
- ③ 題材の目標 反復したり変化したりするリズムの楽しさを感じ取って、演奏したり聴いたりする。

(全5時間)

時	教材	学習活動 (○) 学習内容 (・)	評価規準 (評価方法)
第1時	「マンガニ、雨とおどろう」	○ 範唱CDを聴いて歌ったり、楽器に親しんだりする。 ・ 曲想 ・ 楽器の音色	【音楽への関心・意欲・態度】 アフリカの様子を想像して、進んで歌ったり楽器で演奏したりしている。 (活動の観察、発言やつぶやきの内容、学習カード)
第2時		○ グループでリズムパターンを選びリズムをつくる。 ・ リズム	【音楽表現の技能】 リズムの組合せを工夫し、リズム伴奏を手拍子している。 (活動の観察、発言の内容、学習カード)
第3時 (本時)		○ グループで楽器を選択し、歌に合わせて演奏する。 ・ 楽器の音色 ・ 音の重なり	【音楽表現の創意工夫】 楽器の音色や音の重なりを聴き取り、そのよさや面白さを感じ取りながら組合せを工夫している。 (活動の観察、発言の内容、学習カード)
第4時		○ グループで歌に合わせて演奏し、さらに表現を工夫する。 ・ 音の重なり ・ 楽器の音色とリズムのかかわり	【音楽表現の創意工夫】 楽器の音色、リズムや音の重なりを聴き取り、そのよさや面白さを感じ取りながら表現を工夫している。 (活動の観察、発言の内容、学習カード)
第5時		○ グループごとに演奏し聴き合う。 ・ 音の組合せ ・ 他のグループの演奏の工夫	【音楽表現の技能】 工夫した表現が伝わるように演奏している。 (態度の観察、演奏の聴取、学習カード) 【鑑賞の能力】 楽器の音色や音の重なりなどの表現の工夫に気付いている。 (態度の観察、発言やつぶやき、学習カード)

【これからの学習】

- ① 時期 第4学年 12月
- ② 題材名 「世界のいろいろな楽器やリズムを楽しもう」
- ③ 題材の目標 いろいろな国の音楽に親しみ、リズムや楽器の特徴を感じ取る。

3 本時の目標 (3/5時間)

☆ 楽器の音色や音の重なりを聴き取り、そのよさや面白さを感じ取りながら組合せを工夫することができる。

4 授業の視点

・ 楽器の音色や音の重なりを聴き取り、そのよさや面白さを感じ取りながら組合せを工夫していたか。

5 本時の展開 (3/5時間)

学習活動	教師の働きかけ(指示・説明・発問等) 予想される児童の姿(・)	教師の支援(○) 個への支援(※)	評価(☆) (評価方法)
1 「マンガニ、雨とおどろう」を歌い、前時の学習を想起する。	指 「マンガニ、雨とおどろう」を歌いましょう。 説 前の時間はリズムを決めました。ふり返りカードを読みます。 ・「人が跳びはねているようなリズムができたので、アフリカの人々というタイトルを付けました。」	○ 旋律を手拍子しながら歌うようにし、リズムを打つことができているか確認する。 ※ ふり返りカードを読んで想起を促す。	
2 今日のめあてを確認する。	楽器の組合せを工夫しよう。		
3 楽器の組合せを工夫する。 かかわり合う場の設定	指 楽器の音色や音が重なった時どんな音になるかよく聴きながら、楽器の組合せを工夫しましょう。 ・ いろいろな楽器の音を試したり重ねたりしている。 ・ 「ボンゴの音の方がどっしりとした象の様子が表せそうだ。」 ・ 「楽器を増やして、広い大地を表そう。」	○ 自分達の演奏がよく聞こえるように、2グループに分かれて特別教室を使って練習をする。 ○ グループごとに活動の様子を見取り、思いや意図をもって考えているか確認する。 ※ 話し合いに参加できていない児童には、本人の思いをたずねるようにする。	☆ 楽器の音色や音の重なり聴き取り、そのよさや面白さを感じ取りながら、組合せを工夫している。 【音楽表現の創意工夫】 (活動の観察、発言やつぶやきの内容)
4 グループの演奏を聴き、参考にしたり、工夫したらよいところを伝え合ったりする。 言語活動	指 できているところまでを演奏して聴き合ひましょう。楽器の組合せや音の重なりについての工夫を見付けながら聴きましょう。 ・ 自分たちの演奏との比較 ・ 楽器の組み合わせ ・ 音の重なり 楽器の組合せや音の重なりについて気付いたことを発表しましょう。 ・ 「2つの楽器が重なってにぎやかな感じが出ていました。」 ・ 「最後はみんなの音が重なって元気づく終わっていました。」	○ よいところは参考にできるように声をかける。 ○ つくった音楽を視覚的にも確認できるように、グループの楽譜を拡大提示装置で映す。 ○ 理由とともにグループで工夫したことが発表できるように言葉がけをする。 ○ 具体的な楽器名を言うように促す。 ○ もう一度演奏して、個々の気づきを学級全体で共有するようにする。	

5 本時のまとめをする。	指	学習のめあてについて気付いたことや感じたことをふり返りカードに記入しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・「楽器が増えると、とてもにぎやかな感じになりました。」 ・「動物が増えていく感じを表すために楽器を増やしていきました。」 		
	説	次の時間は、発表に向けて練習をしていきます。		

6 本時の評価規準

学習活動における具体的評価規準	【音楽表現の創意工夫】 ☆ 楽器の音色や音の重なりを聴き取り、そのよさや面白さを感じ取って、組合せを工夫している。
具体的な評価の方法	グループで活動しているときの様子を観察したり、つぶやきや発言の内容を聞いたりして判断する。また、楽譜や学習カードも資料とする。
Aと判断する場合の例	〈Aと判断するキーワード〉 ◇ 楽器の音色や音の重なりに関する発言 <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽器の音色のよさや面白さ ・ 音の重なりよさや面白さ <p>Aの対象となるのは、楽器の音色や音の重なりをどのように工夫するかについて自分なりの思いや意図をもっている児童である。また、他のグループの演奏を聴いて、楽器の組合せや音の重なりよさや面白さについて気付いたことを言葉で表すことのできる児童をAの対象としたい。</p>
Cと判断する児童への働きかけ	自分の思いや意図をもつことができない児童には、友達が選んだ楽器からどの楽器を使うとよいか一緒に考えたり、友達と音を重ねたりして考えてみるように支援する。

7 板書計画

アフリカの音楽で遊ぼう

めあて

アの
リズム

イの
リズム

ウの
リズム

エの
リズム

オの
リズム

カの
リズム

まとめ

楽器の組合せを工夫しよう。

楽器の音色

音の重なり

楽器の音色	
音の重なり	

タイトル

1

2

3

4

(例) 楽器がふえると・・・。